

様式第2号（第9条関係）



令和5年5月15日

尾花沢市議会議長 殿

会派名 無会派

代表者（無会派議員）名 塩原 未知子



調査研究報告書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	最新の AI・人口知能と交通系 DX・江ノ島国際芸術祭調査
期 日	令和5年5月12日（金）～令和5年5月14日（日）
主な利用 交通機関	JR 新幹線 地下鉄 タクシー
実施場所	(1) 東京都内（東京ビッグサイト） (2) 東京都内（東京ミッドタウン八重洲） (3) 尾花沢～東京～神奈川県 (4) 藤沢市江ノ島
調査研究 内 容	(1) 「AI・人口知能 EXPO」「EDIX 展」参加最新の動向調査 人手不足時代、行政のデジタル化に AI を積極的活用すべき (2) デジタル田園都市構想事業の調査 コロナ禍後はデジタルの可能性はさらに広がり「都市と地方」 を「企業と大学」が仲立ちし新たな繋がりを再構築 (3) 交通系 DX の調査 新幹線、地下鉄、都バスやショッピングでの「Suica」活用と 水素バス・タクシー・EV車の市場調査 (4) 江ノ島国際芸術祭 2023（開催4月15日～5月31日） インディゴブルーの布を目印に地域の景観と歴史 を産学官連携で観光名勝地「江ノ島」をフル活用 して行う2回目の芸術祭を調査
参加者	塩原 未知子

※添付書類：所感等を任意様式にまとめ添付する

### (1) 市役所業務のデジタル化にともなう最新の AI・人口知能の今後の動向を調査

今、時代にマッチした新たな有益な「サービス」や「事」は口コミ（SNS）で瞬間に世界を凌駕する。今回の見本市に参加して AI・人口知能の進化は予想以上に目覚ましいと恐怖すら覚えた。しかしこれからは、人手不足を補うために必ず地方にも間を置かず導入されるだろう。若い人材不足が都会よりも顕著な田舎ほど AI 人口知能の助けが必要だ。



しかし、都会では当たり前のルールが田舎のルールにも必要だとは思えない。地方に役立つ AI の知能を作る（育てる？）ためには、その地域にあった「様々な視点からの正しい情報」がより多く必要にたってくるだろう。精度をあげて、分析判断するためにも、正しい情報と豊富な資料は欠かせないという。企業や個人での AI 活用も発展するだろうが、行政だけが持ち続けなければいけない「まちづくりの記録」「ふるさと愛を育む教育」の現場でも AI は活躍するはずだと確信した。すでに大手の IT 企業と連携して調査研究を行い、地域に活用している自治体があり、特に教育の分野で成果としての「人づくり」においては十歩も百歩も先に進んでいきそうである。



今年度事業の尾花沢市の移動市役所事業も目玉事業だと言うが、市民の DX が進展したあかつきには「その道具を何にどう使っていくのか」が重要になってくるだろう。私が今、最も注目しているのは過去の行政情報の分析である。60年ほどの市政の歴史と資料をデジタル化して、いつでも今に活用できるようにする事。まちづくりではどんな「事」も失敗ではない。しかし、様々な角度から政策を分析して分析し、人口知能に学習させていけば、もしかしたら将来、AI 搭載の窓口対応の職員や議員が誕生してもおかしくない。良い判断と良いアイデアを出せるならば、12年間で3人の首長が交代した尾花沢市こそ AI にまちづくりの指針を問いてみるのが良いかもしれない。保管義務期間をすぎて、判断がつかなかった事業の成果こそ、様々な記録や資料、多くの大切なヒントを資料（一件不要な資料も目先を変えれば、重大な資料となる場合がある）が教えてくれるだろう。保管場所確保と担当者の移動で失われる大切な情報を前に、救いあげ、東北で最少人口の我が市の、まちづくりに活かしたい、、、と思った。

### (2) デジタル田園都市構想事業の調査

都市と地方をつなぐ新しいプロジェクトとして、東京駅周辺には様々な情報発信の場が増えてきた。その中で最も新しい動きとして話題の「POTLUCK 八重洲」（ポットラック＝持ち寄る・集まる・つながる）今年3月に東京駅八



重洲口にオープンした新しいビル「東京ミッドタウン八重洲（三井不動産）」だ。このグループ企業は2020年からは農業事業にも参入し、農業を通じて地域活性化を目指す取り組みも行っている。産学官民連携プロジェクトは食と農のイノベーション交流ラウンジを核にして地域と交流、ブランディングの一役を担っている。場所は東京駅から徒歩2分、地下道で繋がっている。ビルは大きさだけでなく、静かで華やか、その5階に日本全国の地方の農業と連携した6次産業に寄与し、ブランディングを展開している。尾花沢市の戸数は約5300戸、全てが雪の心配も地震の心配もしないで、暮しができるかもしれないほど大きく、頑丈そうな建物だった。（参考：<https://www.potluck-yaesu.com/>）  
<https://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/news/2022/1202/download/20221202.pdf>

### (3) 尾花沢にあったキャッシュレス決済導入のための調査

山形県は令和6年度にJR駅を活用した春のキャンペーンの 프로모ーションを行うという。銀山温泉にインバウンド消費の波も戻ってきた。この好機に乗り遅れないようにしたい。

いつも、首都圏に出張する度に思う事は、携帯端末のアプリで移動先の情報や行先のルート調べ、予約や買い物はすべて端末でしかも財布（小銭）いらすのキャッシュレス。切符いらすのチケットレスもあたりまえになった。電車の中は情報端末（スマホやタブレット）を見ていない人はいない。加えて、コロナ禍を経て、



触れないサービスとお得な割引（ポイント付与）合戦で勧誘&リピーター獲得の競い合いも激化してきた。尾花沢市内は未だに旧式のガラパゴス化したポイントカードと「花笠商品券」「元気おばね券」の店頭ポスター掲示広告だけ。使える店を調べるのに、電話で問い合わせると「FAXで送信する」との事だ。



時代に乗り遅れても一周、二週の周回遅れ以上かもしれない。しかし「ピンチはチャンス」である。未だ導入されていないという利点を活かし、地域の金融機関と連携して、インバウンドや交流人口拡大の巻き込み型の地域通貨（商品券）事業と連携したキャッシュレスを導入も可能。地域経済の好循環の流れを一気に進めるべきである。そのためにも、情報ツールとして欠かせないマップ機能（Yahoo プレイスやGoogle Map等のコミュニケーションツール）とLINEやSNSと連



携して情報発信を充実させたい。今だからこそ必要な「ここだけの情報」を発信できる観光情報サイトを尾花沢市も準備すべきだと確信した。

### (4) 徳良湖周辺を活用した観光と芸術祭の可能性調査

湘南ビーチと江の島から眺める富士山の景観は、まるで現代の竜宮城。神奈川県でも藤沢市は東海道五十三次の宿場町として発展してきた。コロナ禍の景観保全と防災を目的とした観光振興をバネに「江の

島国際芸術祭 2023」は昨年度より産学連携企画で後世にどう街の歴史と文化を伝え残すのか、学生の若い力を借りて模索している様子がかがえた。街並みや景観自体をアートの場とする様々なジャンル（浮世絵、光アート、音楽、植物園、湘南アート、etc.）の文化芸術。挑戦が随所に見られ、海辺の観光地を舞台に展開していた。（参照 <https://www.enoshimart.com/>）期間終了後は随時更新する web サイトの中で、コンテンツが更に生き生きと躍動していた。中でも注目したのは、歴史と文化を、フレッシュな感覚を取り入れ継承している、若き学生アーティスト達の活躍である。大胆不敵、多種多様な表現に感服した。行政の学生支援、文化芸術支援はこうありたい。



江の島は昔から浜辺と山間部が近

く、生活圏と観光地の両極で問題の多い場所。江ノ電やバスなどがあり交通の便は比較的良いが、「駐車場」と「災害時の避難道」問題は銀山温泉と同様かもしれない。しかし、30年以上前、訪れた江の島の様子は様変わりしており、驚いた。特に注目したのは緊急避難道マリーナ付近の駐車場からのアプローチ。江島神社の急な登りを緩和するため、有料エスカレーター「エスカー」の壁には今回、時間を予告してのプロジェクトマッピングも行われていた。



頂上の江の島サムエル・コッキング苑内の展望台（シーキャンドル THE SUNSET TERRACE）では、ライトアップする電力の一部に太陽光パネルが使用され、浜風と夕陽を楽しむ野外カフェと展望台の植物園の光の共演ライトアートの電力にしている。公園内では国指定史跡の保存と姉妹都市松本市との交流



を PR する庭園は照明機器が景観をくずさず工夫されていた。ミュージアムグッズの販売売店のコラボや、天候不順でもすぐに営業再開可能なエクステリアや花畑の管理は環境に配慮してあり大変素晴らしいと感じた。歴史と文化をいかに後世に残すかは、やはり「地域振興」と「観光産業」は両輪でなくてはならない。神社の鳥居をくぐって参拝しても、違和感は感じなかった。銀山温泉の山の神神社も修復されるが、築堤 100 年の徳良湖も、もっとしっかりと歴史と文化を未来に継承しつつ、市民だけでなく世界中から訪れる方に伝え思いを残すスタイル



にしていくべきだと強く感じた。

参考：<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/kankou/event/2023enoshima-artfes.html>



様式第2号（第9条関係）

令和5年7月10日

尾花沢市議会議長 殿

会派名 無会派

代表者（無会派議員）名 塩原 未知子



調査研究報告書

次のとおり政務活動事業を実施しましたので報告します。

事業名	最新の食品輸出、教育とものづくり DX の調査
期 日	令和5年6月21日（水）
主な利用 交通機関	JR 新幹線 地下鉄 タクシー
実施場所	（1）東京都内（東京ビッグサイト）
調査研究 内 容	（1）食品輸出 「尾花沢すいか」と「雪降り和牛尾花沢」のさらなる付加価値を産むための地理的表示 GI の意義と青果や生肉の輸出現場の声を聞く （2）教育総合展 EDIX 東京 プログラミング教育や、AI 人口知能を現場でどう活用していくのか、国内の最先端の動向を調査 （3）日本ものづくりワールドにて最新の動向調査 様々な職種で人手不足が予想される、今後の対策と最先端企業の動向を調査
参加者	塩原 未知子

※添付書類：所感等を任意様式にまとめ添付する

最新の食品輸出、教育とものづくり DX の調査

### (1) 最新の食品輸出の動向を調査

6月の会場でひときわ目をひいたのは地理的表示 GI のマークの付いた大玉スイカ。鳥取すいかで全国的に有名は「大栄西瓜」は、平成20年に商標登録され、令和元年6月に地理的表示 GI 保護制度に登録された。この度は会場で海外輸送担当者と直接お話しをする事ができた。

鳥取のブランド西瓜は中東にも輸出されているそうだが、輸出の際には「GI表示」が欠かせないと言う。GIに認定される西瓜の認定方法を質問したら、選果場での糖度判別に加え、資格をもった認定者によって更に厳選されたもののみ表示され、出荷後の管理を徹底するという。その明かしに出荷番号と認定した責任者の名前が一玉ごと明記しトレーサビリティを厳格化している。

「尾花沢すいか」の場合はどうだろう。JA みちのく村山の選果場で認定生産者名は明記されているが、他は糖度の高いシャリ感ある良質の西瓜をうたって出荷しているだけ。「尾花沢すいか」と名乗るだけでブランドを表示し、近頃では（JA みちのく村山）尾花沢市以外、GIの認定も、通し番号も無い。

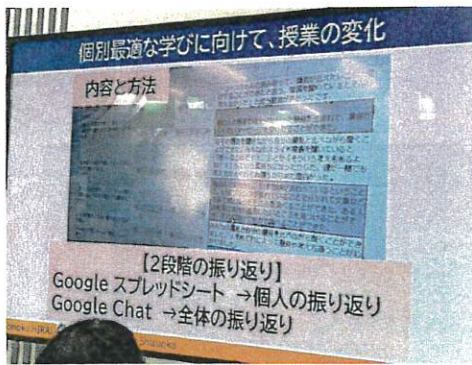
尾花沢には良質の農産品を作る田畑があり、誇りをもって生産している匠の農人が居る。行政と地域が力をあわせ長年築きあげてきた「雪とスイカと花笠のまち尾花沢」「尾花沢西瓜ブランディング」の歴史もある。元年よりGI取得している「スイカ」の話聞き、ぜひ海外への輸出に叶うGIマーク付きの最高級。量にこだわるだけでなく桁違いの価値がある「質」を目指して欲しいと強く感じた。しかしながら、地名を冠した「尾花沢すいか」販売ルートが他市町村からも出荷されている。だからなのか？一丸となったブランドに見合う「質の向上」「付加価値をさらに高める販売戦略」を展開できないのだろうか。地名を冠した「尾花沢すいか」に関しては、県や他市町村のふるさと納税に対しても、尾花沢で作られていない「尾花沢すいか」のクレームを許してはいけない。

地理的表示 GI 取得に限っては、農協が2市1町で合併したため、産地名での登録は認可されない。10月から、ふるさと納税産地厳格化に対し、これからどう調整していくのか、大変興味深い。

地域の農業者がプライドをかけた100年先の販売戦略を本気で考える時期だと強く感じた。次に和牛の輸出に関しても調査した。和牛の輸出は、何よりも輸送時の温度管理と冷凍技術が欠かせないことだ。加えて猛暑にいたっては、糖度の高い尾花沢すいかも常温のトラック移動では品質保持にいきさかの心配もある。今後鮮度を保持して発送するふるさと納税に対しても、温度管理はかせない条件になってくるのかもしれない。その他、農産品、加工品だけに止まらず、海外向けの高付加価値をこの好機に展開していくべきだと思った。



## (2) 尾花沢らしい教育現場でのDX導入



プログラミング教育が小学校は2020年から、中学校は2021年から開始となり、教育の現場に新たな時代が到来した。コロナ禍で、全国的にタブレット情報端末が使われるようになり、テレワークも当たり前になった。展示会で各県での活用などを知り、地域格差が大きく開いてきた事を感じた。現場の進捗は教員のスキルも大いに左右するが、選んだツールや、指導した組織の系統によっての違いが大きいと感じた。小

中学校の次のステージ(高校)でどう平準化していくのか多変興味深い。授業を受ける児童生徒諸君は、生まれた時から「電話・テレビ」よりも「パソコン・スマホ・タブレット」情報端末を説明なくても容易に使いこなせる世代である。プログラミングの授業に関しては大人が心配する必要は全く無いだろう。むしろ数年経てば、授業を組み立てる教師や教育委員会、自治体の考え方が問われるようになるだろう。

今話題の「AI・人口知能」の授業での活用も、これからの世代は当たり前前の時代になる。調べ物授業でググル(検索エンジン Google を使って調べる)その先にある情報が本当に正しいのかどうかを判断して、間違った事を知った時には、次はどう行動(発信する)能力を身につけるかが最も大事になってくるだろう。

ともあれ、今回の調査で分かった事はツールや流行りに流されずに、良く描けるペンと見やすく後で役にたつノートのように、端末とツールを使いこなして、未だ出会っていない「事」も自ら問題解決できるスキルを磨いて欲しい。



## (3) AIやロボットなど人手不足を補う技術革新の最先端調査

プログラミング授業、AI・人口知能、、、とくれば、ロボットの進化が加速していく事、間違いはない。鉄腕アトムやスターウォーズのC3POのような、アニメの中のロボットが当たり前職場のスタッフとして仕事をしてくれる。家庭では家族の代わりに食卓を準備する、、、そんな日はそう遠くないと確信した。

過疎と少子化が加速してやって来る尾花沢の将来においては、柔軟な発想力でAIやロボットと付き合っていく事が肝心。これからは人手不足が何よりの課題だと感じる。全てを人が行っていた時代はもう終わるのかもしれない。個人的には、物忘れの多くなった自分の日常をもっては、スケジュール管理や細かい説明文字の多い書類の判断を補助してくれ、簡単な家事も文句を言わずに手伝ってくれる秘書兼介護ロボットの開発に大いに期待している。または、会話の少なくなった夫婦の様々な愚痴を、それぞれを癒しながら聞いて、解決策、妥協点を見つけてくれるロボットもいいかもしれない。進化を恐れずにチャレンジしたい。

